

ほっとクリニック

町立金山診療所だより 93

金山町大字金山548-2 ☎52-2915



ドクターメッセージ

町立金山診療所
非常勤嘱託医 東郷ひろみ（疼痛外来）

強い痛み止めて癒になるの？

医療用麻薬として知られているオピオイド系鎮痛薬（モルヒネなど）は、癖になってやめられなくなるから長期間使ってはいけない。このように誤解されている方も多いと思います。それがかつては麻薬中毒（耽溺）^{たんでき}と言っていました。現在は「精神的依存」と表現します。最近の研究で、癖にならない（精神的依存が起きない）仕組みがわかってきました。



痛みのない人が使えば報酬系と言われる脳の神経系からホルモン（ドーパミン）が出て、気持ち良くなり、精神的依存が起きます。しかし痛みのある人では、生理学的変化がおきて、オピオイド系鎮痛薬の受容体

（効果をもたらす部位）の作用で、報酬系からこのドーパミン放出が抑制されます。だから精神的依存はおきません。

オピオイド系鎮痛薬（特にモルヒネ）への古くからの誤った考え方と第二次世界大戦後の医療用麻薬の規制強化、さらに健全な（つまり痛みのない）実験動物での研究成果ばかりが医学薬学で教えられてきたことが偏見を作ってきたのでしよう。



またオピオイド系鎮痛薬の身体的依存については、耐性（効果が弱くなる）や退薬症状（急に服用を中止した時に起きやすく、消化器症状が一番多い）は起こります。しかしその対処方法もわかってきました。

そして不思議なことにオピオイド系鎮痛薬の必要量は人によってかなり大きな差があります。

これらの研究は鈴木勉さん（星薬科大学、長井市出身）が中心的な役割を果たされました。



癌の痛みであっても癌でない人の痛みであっても大丈夫。

未だに医療用麻薬などの鎮痛薬を十分に使用せず、痛みを我慢したまま闘病している方もいらっしゃるようです。とても残念です。

当診療所では、原則毎週月曜日に、東郷ひろみ医師による「疼痛外来」の診療を行っています。

受診ご希望の際は、事前にご連絡ください。